

稲作だより

～第9号 出穂期管理編～

間断灌水で根の活力を維持しよう！ いもち病とカメムシの多発に注意！！

地域 品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
村山市白鳥	R 3	72.0	548	11.8	34.8
	R 2	69.2	694	11.0	41.7
はえぬき	平 年	63.6	593	11.2	39.2
	平年比	113	92	0.6	-4.4
村山市河島	R 3	66.5	550	11.2	35.2
	R 2	61.4	574	10.8	39.4
つや姫	平 年	63.6	546	11.0	37.7
	平年比	105	101	0.2	-2.5
村山市白鳥	R 3	69.8	703	11.7	39.3
	R 2	65.5	678	11.2	43.8
雪若丸	指 標	64.0	600	11.6	41.0
	指標比	109	117	0.1	-1.7

平坦部の出穂期は平年並～やや早い見込みです。

「はえぬき」8月5～8日頃、

「つや姫」8月10～13日頃、

「雪若丸」8月4～6日頃

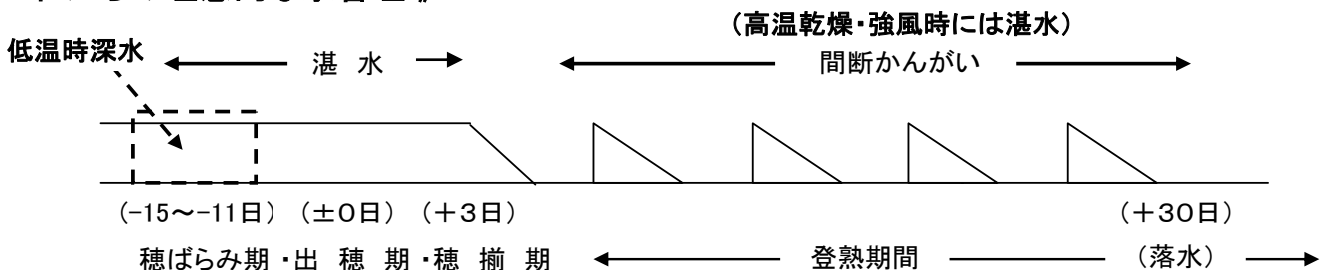
中山間・山間部は上記より2日

程度遅れる予想です。

1. 水管理が良食味・高品質米生産のカギ！！

- 出穂期までは、2日湛水＋2日落水の間断かん水を行い、根の活力を維持します。
- “水稻”の名の通り、稲は出穂・開花期に最も水を必要とし、最も乾燥に弱い時期です。
- 出穂期を迎えたら開花がほぼ終わるまでおおよそ7日間は2～5cmの湛水管理とします。

《これからの理想的な水管理》



2. 斑点米カメムシ類が急増中！！

- 7月12日に斑点米カメムシ類注意報が発表になりました。草刈りは出穂2週間前までに行います。これ以降の草刈りはカメムシ類の水田への侵入を促します。出穂2週間前から8月いっぱいには畦畔の草刈りはやめましょう。やむを得ず草刈りをする場合は、薬剤防除の直前に実施してください。
- 基本防除時期は、穂揃期＋穂揃期7～10日後の2回です。例年、被害がみられるところでは追加防除を行います。

3. いもち病の急激な感染拡大に注意！早急に見回りを！！

- 管内でも葉いもちの発生が確認されています。穂肥施用後はイネの窒素濃度が高まっています。水田を見回り早期発見・早期防除に努めましょう。常発地や葉色の濃い圃場では、特に注意してください。

熱中症に注意！！「もう少し」と思う時に休憩し、水分を補給しましょう。